

❖❖❖ 概要版 ❖❖❖

太宰府市自殺対策計画

～誰も自殺に追い込まれることのない地域を目指して～

2019年度～2023年度



平成31年3月

太宰府市

✧✧✧ 計画策定にあたって ✧✧✧

○計画策定の趣旨

自殺は、その多くが追い込まれた末の死であり、自殺の背景には、精神保健上の問題だけでなく、過労、生活困窮、育児や介護疲れ、いじめや孤立などの様々な社会的要因があることが知られており、自殺に追い込まれるという危機は「誰にでも起こり得る危機」です。

平成 28 年に自殺対策基本法が改正され、誰もが「生きることの包括的な支援」としての自殺対策に関する必要な支援を受けられるよう、全ての都道府県及び市町村が「都道府県自殺対策計画」、「市町村自殺対策計画」を策定することが義務化されたことから、本市のこれまでの取組を発展させる形で自殺対策を推進するため、「太宰府市自殺対策計画」を策定しました。

○計画の位置づけ

自殺対策基本法に基づき、国の定める自殺総合対策大綱の主旨を踏まえて、同法第 13 条第 2 項に定める「市町村自殺対策計画」として制定するものです。

○計画の期間

平成 31(2019)年度から 2023 年度までの 5 年間とします。

✧✧✧ 計画の数値目標 ✧✧✧

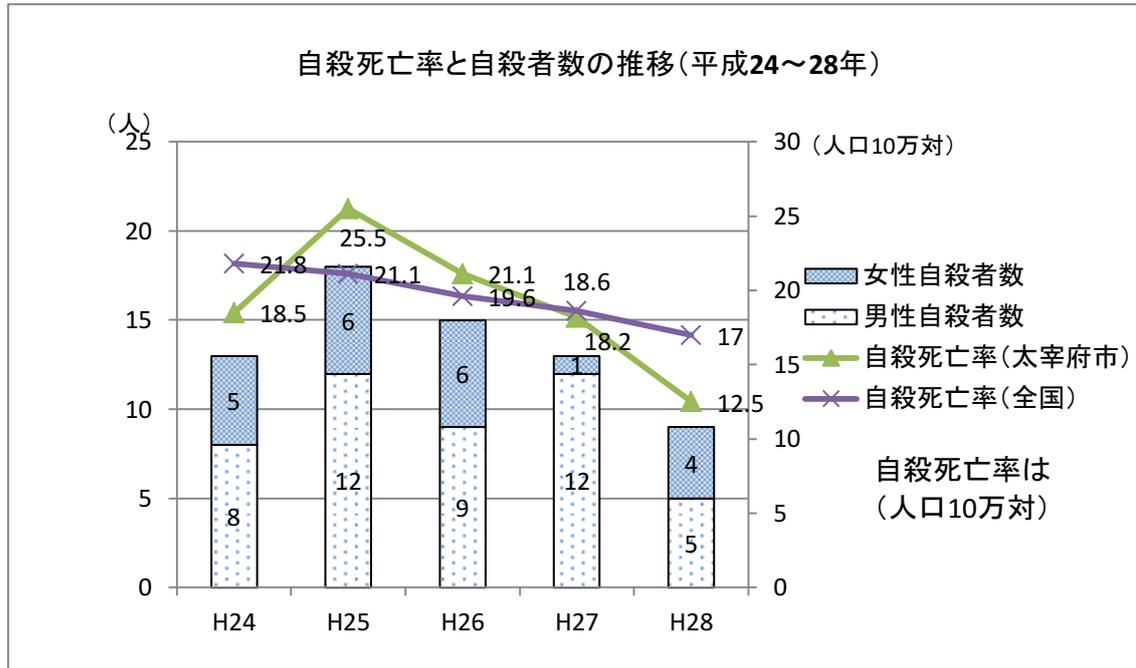
	現状 (平成 24~28 年平均)	目標 (平成 31 (2019) ~ 2023 年平均)
平均自殺者数	13.6 人	11.6 人
平均自殺死亡率 【単位：人／人口 10 万】 ※人口 10 万人当たりの自殺者数	19.1 ^{※1}	15.8 ^{※2}



❖❖❖ 太宰府市における自殺の現状 ❖❖❖

全体的特徴

- ① 年間自殺者は平均 13.6 人、自殺死亡率は全国と同水準である



- ② 20歳未満、30歳代若年者および高齢者の自殺死亡率が高い
 ③ 自殺者の約7割が無職者
 ④ 有職者の自殺者数の約9割が被雇用・勤め人
 ⑤ 自殺者の約7割に同居人がいた



自殺死亡率が高い年代に絞って職業や同居の有無などの分析を行った結果、以下の特徴が見えてきました。

年齢別① 20歳未満

- 20歳未満の自殺死亡率は、筑紫地区・福岡県・全国と比べて高い。
- 自殺死亡率は男性が高い。

年齢別② 30歳代

- 自殺死亡率は男性が高い。
- 男性は「有職・同居」、女性は「無職・同居」の割合が高い。
- 自殺の背景にある主な危機経路の例
 - 男性：勤務問題
 - 女性：経済・生活問題

年齢別③ 60歳代以上

- 自殺死亡率を全国と比べると、男性は60歳代、女性は80歳以上が高い。
- 男性は「無職・同居」「無職・独居」、女性は「無職・同居」の割合が高い。
- 自殺の背景にある主な危機経路の例
 - 男性：経済・生活問題、家族問題、健康問題
 - 女性：健康問題

✧✧✧太宰府市における自殺対策における取組✧✧✧

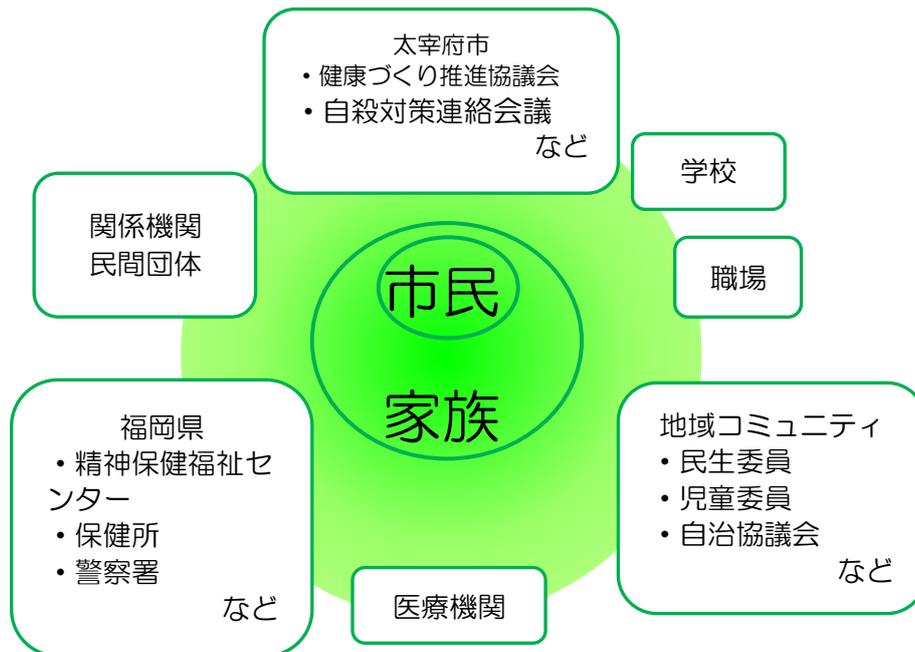
基本施策	施策項目	主な取り組み事業	目標	
			現状値	目標値
全国的に共通して取り組むべき施策とされています				
1 ネットワークの強化 自殺対策を推進するための基盤となる取り組みです。	<ul style="list-style-type: none"> 市内における連携・ネットワークの強化 地域における連携・ネットワークの強化 特定の問題に対する連携・ネットワークの強化 	太宰府市自殺対策連絡協議会 太宰府市健康づくり推進協議会 要保護児童対策地域協議会	太宰府市自殺対策連絡会議の開催	※H31年度より実施 毎年1回
2 自殺対策を支える人材の育成 悩みを抱える人への早期の「気づき」ができる人材育成に努めます。	<ul style="list-style-type: none"> 職員を対象とする研修 市民を対象とする研修 自殺対策を支える者への心のケアの推進 	職員同和問題研修 ゲートキーパー研修 職員の健康相談	職員同和問題研修の参加率（職員対象） ゲートキーパー研修の参加者数	96.1% 63人 98% 80人
3 市民への啓発と周知 相談機関等の情報提供と自殺対策について理解を深めることができるよう市民一人ひとりの意識の共有を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> リーフレット・啓発グッズ等の作成と活用 市民向け講演会・イベントなどの開催 	こころの健康・自殺予防に関する相談窓口の周知 自殺予防週間・自殺対策強化月間の啓発運動の推進 精神保健福祉講演会 同和問題啓発強調月間市民講演会	相談先紹介媒体の市内設置施設数 精神保健福祉講演会の参加人数 同和問題啓発強調月間市民講演会の参加者数	※H31年度より実施 21施設 65人 450人
4 生きることの促進要因への支援 自殺に追い込まれるのは「生きることの促進要因」よりも「生きることの阻害要因」が上回った時です。「生きることの促進要因」を増やすための取り組みを勧めます。	対象：妊産婦・子育てをしている保護者 ・居場所づくり ・相談体制の充実・相談窓口情報の発信 ・妊娠・出産・子育てに対する支援の充実 対象：すべての市民 ・居場所づくり ・相談体制の充実・相談窓口情報の発信 ・支援の充実 対象：自殺未遂者 ・相談体制の充実・相談窓口情報の発信 対象：遺された人 ・相談体制の充実・相談窓口情報の発信	保健センター相談業務 子育て広場、子育てサロン ごじょっこフレンズ 妊婦相談、乳幼児健康相談 子育て女性の就職相談 こんにちは赤ちゃん訪問 ファミリーサポートセンター事業 太宰府市NPO・ボランティア支援センター 「うめさろん」事業 こころの相談 障がい者虐待対応業務 自立支援医療 精神保健福祉相談 自死遺族の相談	子育て広場・子育てサロン参加者数 妊婦相談実施率 ファミリーサポートセンター 援助活動利用件数	16,208人 18,000人 100% 100% 477件 500件
5 児童・生徒のSOSを出せる力を育てる教育 「困難やストレスに直面した児童・生徒が信頼できる大人に助けの声をあげられる」ことを目標としています。	<ul style="list-style-type: none"> 児童・生徒のSOSに気づく体制づくり 児童・生徒のSOSの出せる力を育てる教育 SOSの出し方に関する教育を推進するための連携の強化 	いじめに特化したアンケート 家庭児童相談事業 教育の実施 小・中学校との連携	教育実施回数	1回/年/1学校 3回/年/1学校

重点施策	施策項目	主な取り組み事業	目標	
			現状値	目標値
太宰府市の自殺の特徴を踏まえた取り組みです				
1 「子ども・若者」の自殺対策の推進 児童・生徒や保護者等が抱え込みがちな自殺リスクの早期発見に努めるとともに、問題などに直面した際に相談できる環境づくりの推進を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> 若者の抱えやすい課題に着目した児童・生徒・学生などへの支援 経済的困難を抱える子どもなどへの支援 社会全体で子ども・若者の自殺リスクを減らす支援 	スクールカウンセラー活用事業 太宰府市いじめ問題等対策連絡協議会 適応指導教室（つばさ学級） 太宰府市若年者専修学校等技能習得資金 青少年対策事業	いじめ解消率 不登校児童・生徒の復帰率（小学生） 不登校児童・生徒の復帰率（中学生）	98% 6.7% 35% 32.6% 35%
2 「生活困窮者」の自殺対策の推進 複数で広範な課題を抱えており、精神的・経済的に不安が大きいと考えられる生活困窮者への早い段階での支援	<ul style="list-style-type: none"> 多分野機関とのネットワークに基づく相談支援 生活困窮を抱えた人に対する個別支援 	犯罪被害相談窓口 ルミナスDV相談 身体障がい者相談員 生活困窮者自立支援制度	自立相談支援事業による就労者数	10人 30人
3 「高齢者」の自殺対策の推進 行動範囲が狭くなり喪失感・孤立・孤独感を感じ、うつ傾向状態、閉じこもりになりやすくなります。高齢者特融の課題を踏まえ、早期発見し支援を行います。	<ul style="list-style-type: none"> 包括的な支援のための連携の推進 地域における要介護者に対する支援 高齢者の健康不安に対する支援 社会参加の強化と孤独・孤立の予防 	包括的支援事業、認知症総合支援事業 認知症サポーター養成事業 地域包括支援センターによる総合相談事業 地域での介護予防教室	生きがいを感している高齢者の割合 何かあった時に相談する相手の割合 あなたの現在の幸せ度	72.4% 54.9% 49.8% 80% 70% 50%

✧✧✧ 自殺対策の推進体制 ✧✧✧

1 太宰府市自殺対策ネットワークの推進・協働

自殺対策において、様々な機関のネットワークの推進・協働は基盤となる取り組みであり、より効果的に自殺対策の実現を目指す、市民や家族を包括的に支援する自殺対策関係者のつながりです。



2 太宰府市自殺対策連絡会議

自殺対策はまさに市民の命を守る取り組みそのものであるため、この会議では行政トップが責任者として関わり、自殺対策に関連がある関係部局で校正しています。庁内の横断的体制を整え、本市の自殺対策を総合的かつ効率的に推進します。

